

JA山形おきたま

安部 洋さん 錦郡 昌之さん
小形 義美さん 寺嶋 嘉春さん

～環境に配慮した農業をすることで
余計な農薬散布、施肥をしなくなり
経費を削減できる～

JA山形おきたまは、日本三大和牛の一つである「米沢牛」や、「デラウェア」を始めとした果実の産地として有名な、山形県の南部に位置した山々に囲まれた盆地です。昼夜の寒暖差が大きい気候で、花も発色が良くなります。

当JAでMPSの話が出始めた時から、その必要性に注目し加入した安部 洋さん。現在は、花の生産が盛んではなかった飯豊地区で「宇津の豊郷」という露地の宿根草、薬用花木の出荷を主とした生産組織を立ち上げ、指導を行っている。農薬・肥料・除草剤の使用を制限し、環境にも配慮した安全な花を生産するにあたり、MPSは合致しているとのこと。

長井地区で花木の生産を行っている寺嶋嘉春さんもMPSの必要性を感じている。加入してからは農薬散布に気を配るようになった。「MPS」の表示により、環境・人体に優しい花づくりの取り組みを行っていることが視覚的に区別出来る。若い後継者とMPSを共有して行きたい。寺嶋さんの栽培されている「啓翁桜」は近年海外でも引き合いの強い品目。輸出を行う際には、MPSが有利な条件になると考えている。

川西町でダリア・デルフィニウムを栽培している小形義美さんは、認証後、すぐに出荷段ボールにMPSマークを表示した他、市場の送り状にも認証番号等の記載をした。MPSに加入・理解のある市場を中心に差別化販売に繋がっている。また、昨年度より始まった日持ち性向上対策品質管理認証制度でも認証を受け、MPSマークと品質管理認証マークを併記したステッカーを貼り付けて出荷を始めた。

南陽地区のアルストロメリア生産者の錦郡昌之さんは、農薬・肥料を必要以上に使わないことにより地力が低下せず、残留窒素のコントロールがし易くなる。また、作業場・ハウス内もクリーンな環境であり、作業性が高まっているとのこと。MPSの花を求めているお客様は多いと思うので、取り組む生産者が増えることを願う。また、お客様に必ず求められるような認証制度として定着するように活動して頂きたいと思う。



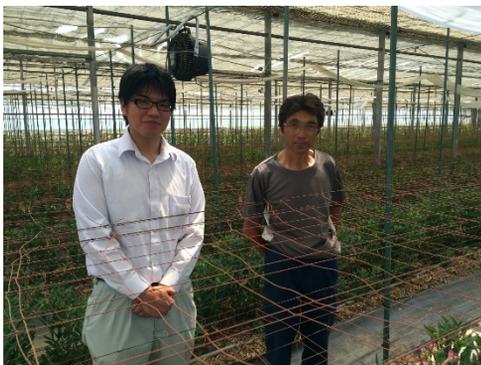
安部洋さん



寺嶋嘉春さん（右）と従業員の田中さん



小形義美さん



錦郡昌之さん（右）と農協の小形さん